

温度管理型冷凍冷蔵庫のBCP対策と工事期間の延長について  
－北海道胆振東部地震を踏まえて－

2018年12月17日  
苫小牧埠頭株式会社

北海道クールロジスティクスプレイス株式会社（代表取締役社長 橋本哲実）が建設する温度管理型冷凍冷蔵庫につきましては、2018年8月21日に地鎮祭を執り行い、工事着工しております（弊社同日付HP資料参照）。

本冷蔵倉庫は、道内最大級の施設による新たな物流を構築し、①食品出荷の安定化・平準化、②食品加工業の育成、③混載共同化や港湾と空港の連携等による、北海道の食産業の成長と輸出拡大を図ることを目的とするものであり、多温度対応、鮮度維持、環境対応、省エネ・省力化等の次世代冷蔵倉庫のモデルとなる先進的機能を目指しております。

#### ○新冷蔵倉庫のBCP対策

本施設の災害対応機能とBCPにつきましては、計画当初から以下の対策を講じております。

- ①施設の構造は、耐震Ⅱ類（大地震動後、構造体の大きな補修をすることなく、建築物を使用できることを目標とし、人命の安全確保に加えて十分な機能確保が図られている）とし、病院、学校、避難場所と指定された施設等と同様の強度を確保
  - ②建物を支える杭は、地中23mまでのものを201本、地盤深くの支持層に達するよう打設し、大きな支持力を得られるハイパーメガ工法(注)を採用
  - ③自動倉庫は、免震ラックや免震コンベアを採用し、震度6強まで機能維持が可能
  - ④72時間稼働可能な自家発電装置を設置
  - ⑤津波対策として、機械設備、自家発電設備、事務所等は、2階以上の階層に設置し、苫小牧東港における災害時の指令所及び避難所機能を発揮
- (注) 大きな地盤支持力（建物の荷重を地盤や基礎が支えることができる大きさ）を得る工法

#### ○地盤地質と工事の安全性

更に、2018年9月6日に発生した北海道胆振東部地震を踏まえ、本格着工前に、地盤地質と施設の安全性を確認し、工事の安全対策を実施しております。

すなわち、建設用地については、改めて、地中22mまでのボーリング調査、水質調査、GPS測量等を行い、地盤、地質等の状況について再調査を実施し、当初計画の施設の耐震性等に不足がなく、工事の安全な実施にも支障がないことを確認致しました。

これを踏まえ、11月に杭打ちを開始し、これまでに全杭の打設を完了しております。

#### ○工事期間の延長

本施設の内容に大きな変更は予定しておりませんが、地震による本格着工が遅れ、安全対策に万全を期したことに加え、建設工事の遅れに伴う冬期間工事の制約等を考慮し、安全で良質な施工を図るため、工事期間を延長することとし、操業開始については、当初予定していた2019年9月から2020年春に変更する方針と致しました。

北海道胆振東部地震の影響から、関係の皆様にはご迷惑をお掛けすることとなりますが、今後の工事の安全確実な実施に全力を上げるとともに、工事期間も有効に活用し、今後とも北海道の食産業の高度化、輸出促進、物流高度化を目指した取り組みに力を注ぐ所存です。

以 上

【会社概要】

会社名	北海道クールロジスティクスプレイス株式会社
本社	苫小牧市入船町3丁目4番21号(苫小牧埠頭(株)本社内)
設立日	2017年12月1日
資本金	4億6千万円
株主	苫小牧埠頭(株)、(株)日本政策投資銀行、日本通運(株)、北海道空港(株)、ホクレン農業協同組合連合会
代表者	橋本哲実(苫小牧埠頭(株)代表取締役社長)

【完成予想図】



【現地航空写真】



【施設概要 (予定)】

建設地	苫小牧市弁天1番地(苫小牧国際コンテナターミナル隣接地) ー 苫小牧東港に立地、新千歳空港に近接、高速道路、札幌圏、苫東産業地域と連携		
規模	敷地面積	28,441 m <sup>2</sup>	
	建築面積	3,984 m <sup>2</sup>	延床面積 14,178 m <sup>2</sup>
構造	鉄筋コンクリート造、地上4階建		
収容能力	20,200t うち冷蔵 7,500t、冷凍 7,700t、冷凍・冷蔵切替 5,000t		
対応温度	冷蔵 0～15℃、冷凍 -38～-25℃、冷凍・冷蔵切替 -25～15℃		
鮮度保持機能	CA(Controlled Atmosphere)冷蔵庫 2,800t、急速冷凍庫、加除湿装置		
省力化設備	自動温度制御、自動倉庫、移動ラック、IT活用等		
省エネ・環境対策	外断熱工法、自然冷媒機器(二酸化炭素、アンモニアを使用)等		
BCP対策	耐震Ⅱ類、津波避難場所機能、免震装置、非常用発電機等		
総事業費	70億円		
着工・竣工・開業	2018年8月着工、2020年春竣工、営業開始(予定)		